敬老カード

追加交付申請をできなかった人への救済

市の回答ー「今年度の対応は困難」

札幌敬老パスを守る連絡会は、９月２６日に追加交付を申し込めなかった人への救済を申し入れていましたが、１０月１９日市から今年度は困難だとの回答（左記）がありました。

回答の主要点

①追加交付可能性のある１４万人を対象に告知しなければならず、手間と費用がかかる、②交付のための郵便局との契約もし直さなければならない。ちなみに対象者へ通知を出すと約９００万円の郵送料がかかる。郵便局との契約料は別途かかる。

冷たい、柔軟に対応すべき

竹中代表ら８人の参加者からは「相手が高齢者であり、うっかり忘れることは想定すべきで、柔軟な対応があっていいのではないか」「敬老パスと言いながら上限や一部負担と変えられてきた、交付手続きなどは配慮をしてほしい」「高齢者に冷たいのではないか」との声が相次ぎました。

また、「うっかり忘れなどの人は期限後の申請は認めないと、本庁が硬直した方針を出したことが問題ではないか」「告知の方法や手続きを簡素化し、経費をかからないよう荷対応できるのではないか」「たとえ９００万の費用がかかるとしても、敬老カードの予算内でできるはず」と指摘をしましたが、今年度はむずかしいとくり返しました。

来年度は改善したい

来年度については①交付期間の延長、②交付方法ー区役所へ申し込み郵便局で受け取るー方法も簡単にする、ことを検討しているとの回答がありました。

回答書

札幌市保健福祉局保健福祉部長 宮川　学

平成１８年に新たに開始しました敬老優待乗車証の追加交付につきましては、本年２月の制度改正において追加交付対象者を１２万人程度と想定し、これらの方々への交付を円滑に行うための方法について検討を重ねてまいりました。その結果、新たに年齢到達を迎える方々への一斉交付の時期に合わせることができれば、２３０局の郵便局を利用し円滑に交付することが可能であり、新たな経費負担も最小限にとどめることができるとの判断がなされ、申請期間を８月の１ヶ月間とさせていただいたところであります。

ご要望の件にお応えするためには、未だ追加交付を受けていない大勢の方々へ再度お知らせしなければならないことや交付事務に係る契約の見直し作業など、相応の期間と多くの費用が必要となることから今年度の対応は困難でございますので、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

なお、ご利用される方々には個々の事情があるとのご指摘につきましては承知しておりますので、今後、このたびの意見も考慮しながら、この事業がより多くの方々にとって利用しやすいものとなりますよう、検討してまいりたいと考えております。

竹中九仁男代表の談話

今回の回答で、今年度の対応は無理だということには納得がいかない。私たちは再々交付を要求しているのではでなく、期限までに申請を忘れたのも高齢者の事情として、受け付けてもらうような「救済」をお願いしている。行政の「情け」があってもいいのではないか。

来年度の改善は結構なことだが、今年の救済も急がれる。今後は市議会にもお願いするなど、世論を高めたい。

敬老カード追加交付の状況

	申請者数（人）	申請枚数（枚）	申請金額（円）
06年8/1 ～ 06年8/31	10,384	19,369	193,690,000
3月交付当初申請数		495,682	4,956,820,000
対当初比		3.91%	3.91%

１人あたりの追加金額→１８，６５２円

Fax通信　０６年１０月２１日

札幌敬老パスを守る連絡会

白石区菊水3条3丁目 井上ビル 札幌社保協気付

TEL ８２３－０８６７Fax ８２１－３７０１

www.sapporo-syahokyo.jp/syaho_pass.htm